

CCC学生団体・なごやであそび隊 南相馬市立小高小学校訪問

コミュニティ・コラボレーションセンター(CCC)を拠点に活動する学生団体「なごやであそび隊」は、東日本大震災で被災し、愛知県に避難されたご家族・子どもたちを支援してきました。前身となる学生有志の募金活動が2011年から始まり、2012年から「なごやであそび隊」としての活動が本格的にスタートしました。子どもたちのニーズに合わせてお楽しみイベントや学習支援などを企画・実施し、子どもたちやご家族の心が癒される居場所づくりをめざしてきました。また、福島県の小学校への本の寄贈や毎年のメッセージ交換を継続するなど、被災地の方々との交流も大切に続けてきました。

東日本大震災から10年となった2021年には、被災した方々へのメッセージ集を学生たちが作成。在学中から被災地支援に取り組んできた卒業生たちも含め、約40人のあたたかな思いが込められた1冊が完成しました。福島県の小学校の先生方のご協力のもと寄贈先が決まり、11月に「なごやであそび隊」に所属する交流文化学部4年・伊藤菜々子さんが南相馬市立小高小学校を訪問しました。メッセージ集を校長先生に手渡した伊藤さんは「かつてまちだった場所が一面の野原になつているなど、被災地を初めて自分の目で見て胸に迫るものがありました。また、あたたかく歓迎してくださった福島の方々への感謝の気持ちが溢れ、今後も福島の方々に心を寄せて、自分にできることを続けたい」と思いを新たにしました」と語りました。

活動を始めて、10年目を迎える「なごやであそび隊」。先輩から後輩へと思いを受け継いで新たな一歩を積み重ね、人と人の支え合いの輪を広げていきます。



創造表現学会主催講演会「知求儀」

創造表現学会が主催する講演会「知求儀」が、11月・12月に開催されました。藤田良治准教授の企画により行われた全3回の講演者・演題は、11月28日は法政大学経済学部・藤田貢崇教授による「ジャーナリズムとの向き合い方」、12月4日は北海道大学総合博物館・湯浅万紀子教授による「ミュージアム体験の長期記憶を
探る」、12月11日は北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・柴田英昭教授による「窒素から考える環境問題と私たちの暮らし」。多様な専門分野で活躍する研究者の方々に、未来を見据えた「今」を語っていただきました。これからの時代を担う学生たちにとって、知的好奇心が刺激される時間となりました。



健康栄養学科 榎ゼミ 中日新聞社ヘルシーメニュー提供

健康栄養学科の榎ゼミは、企業や病院との連携プロジェクトに取り組み、管理栄養士に求められる実践力や専門性を磨いています。本年度は株式会社中日新聞社と日本ゼネラルフード株式会社のご協力のもと、社員食堂で提供するヘルシーメニューの考案に榎ゼミの3年生が挑みました。「低エネルギーで低塩分、かつ野菜が多く摂れる」という条件に対し、学生たちは日頃の学修や柔軟なアイデアを活かしてメニューを提案。11月には、学生3人が中日新聞社の食堂を見学するとともに、配膳・提供も体験しました。自分たちが考案したメニューを実際に提供するところまで経験でき、現場に即した学びを深めていました。



第3回オープンキャンパス

9月19日に開催を予定していた2021年度の第3回来場型オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止および来場者・関係者の安全を考慮した結果、中止となりました。当日に実施を予定していた学科・専攻相談と入試相談については、オンライン等で開催し、多くの受験生・保護者の方々に参加いただきました。ご参加いただきました。限られた時間ではありましたが、学科・専攻のキャリアアップや特色、学生生活、入試の対策など、進路に関する上で知りたいことに関心を持って質問する参加者の姿がみられました。今後も、高校生の皆さんにとって希望の未来を描くきっかけとなるイベント開催や情報発信を行います。



高校 秋の文化祭

11月17日、爽やかな秋晴れの下、日本特殊陶業市民会館フォレストホールにて秋の文化祭を開催しました。コロナ禍2年目の文化祭。「no」形式で実施できる喜びは、生徒たちにとっても私たち教員にとっても計り知れないものがあります。客席数の半減、保護者の鑑賞をお断りするなど、まだまだ制限は多いのですが、2年目となると生徒たちも私たち教員も自然と感染症対策が身につく、昨年度よりもスムーズに文化祭を運営することができました。本番では、すべてのクラブが思いのこもった素晴らしい演奏・演技を披露し、客席から温かい拍手が送られました。今後も出来る限り「no」形式の発表に拘った文化祭の実施を検討していきたいと思っております。



中学 秋の文化クラブ発表会

春に続き、感染防止対策のため、秋の文化クラブ発表会も各クラスでの映像での鑑賞となりました。文化委員からははじめの言葉があり、いつもの授業の開始とはまた異なった雰囲気になります。どのクラブも日ごろの成果を活かす機会となりました。しかたのないこととはいえ、「本当は生で鑑賞したかったなあ…」というのが生徒も教員も素直に思うところだと思います。改めて練習を重ねて、淑徳の文化クラブの活動の充実を実感したいです。収録に際しては当該クラブ以外の方のご協力も仰いでおります。学校全体の和があつてこの行事の開催を、とてもありがたく思いました。



学校説明会・学校見学会

10月23日午前・午後の2回に分けて学校説明会を開催しました。午前の部では、1月に本校の受験を希望する小学6年生とその保護者を対象に、昨年度の入試問題と正答率を使って、入試の傾向や出題の意図などを各教科から話をしました。熱心にメモをとる親子の姿が見られ、入試が近づいていることを実感しました。

午後の部は、小学5年生以下を対象に開催し、本校の授業を体験していただける模擬授業を行いました。「手紙のルールについて学ぶ授業は、レベルが高くて感心しました」、「数字マジックのタネが、学校で習ったことで証明できるなんてびっくりしました」、「普段感じない大気圧について学べて、よく理解できました」といった声が参加者から寄せられ、授業に高い関心を持っていることが分かりました。

また、学校見学会を11月13日、20日、27日に開催しました。学校見学会は全体会だけではなく、本校教員による校内見学ツアーを実施し、グループごとに校内各所を巡っていただきました。参加された保護者の方が「図書館が広く、蔵書が9万冊もあると聞いて驚きました」、「愛知淑徳を探索した気分になり、魅力的なツアーでした」、「丁寧に説明していただき、ありがたかったです」などとお話してください、校内見学ツアーに概ね満足された様子でした。

コロナ禍、完全予約制で行いましたイベントは、盛況のうちに終わることができました。



淑美展

淑美展は愛知淑徳中学・高校の美術部、書道部、写真部の合同展覧会であり、展示クラブの数少ない校外発表の場です。今年は11月16日～21日に、名古屋市民ギャラリー矢田を会場として約70点の作品を展示し、235人の来場がありました。生徒の作品が中心ですが、美術科や書道科の教員の作品も展示しました。観ることはできませんが、会場内の雰囲気や伝えるツールとなりました。淑美展が本校の芸術文化活動の一環として今後も発展していくことを願っています。



PTA講演会

昨年度はコロナ禍のため中止を余儀なくされたPTA講演会でしたが、今年度は幸いにも感染状況が沈静化した時期となり、11月8日に無事開催しました。会場はソーシャルディスタンスに配慮し、記念講堂となりました。

講師は、宝塚歌劇団の男役で活躍された、まほろば遊さんです。「すみれの花咲

く頃」を歌いながらの登場に、観客の心は驚つかみでした。現役時代の闘病のご苦労、有名女優の方々とのエピソード、退団後に癌と闘いながら新たな生き方を見つけ、挑戦の真つ最中であることなど、豊富な人生経験が語られました。一言一言に誠実さがあふれ、爽やかな秋の風が感じられる講演会となりました。

